

平成30年度学校評価（全日制課程）		愛知県立大府高等学校	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
本年度の重点目標	①新たな文武両道の創造 ②人間関係構築力の育成及び基本的な生活習慣の向上 ③学校における安心・安全の確保 ④創立70周年を踏まえた保護者、中学校、同窓会、地域、産業界との連携 ⑤実効性のある働き方改革への取り組みの推進		
総務部	①仕事の効率化 ②PTAとの連携強化 ③国際交流の充実 ④70周年事業の奏功	①各業務の担当窓口を1本化し、責任の明確化を図る。 ②昨年度同様PTA（特にPTA役員）との連携を大切にす。 ③国際交流の流れを定着させる。 ④各部署との連携を大切にす。	①分掌会議の中で各担当の進捗状況の報告をする中で相互に協力しあう。 ②PTA関連の書類発送を少なくとも2週間以上前には完了させる。 ③分掌内に担当者を設ける中で、任せきりにならないよう学校全体の行事としての位置づけを確立したい。 ④周年行事なので次の80周年の参考になるよう記録を残す。
教務部	①仕事の精選とスリム化による効率の向上	①成績処理の電算に関する仕事を見直し、仕事の能率・正確性を向上させる。 ②成績処理の日程や書類の流れを見直す。	①全職員に変更点を周知理解を求め、教務として正確に処理が出来るように事前の準備と確認作業をする。成績処理担当者の役割分担を明確にする。 ②見直しをする内容を精選し、全職員への周知を徹底する。
生徒指導部	①基本的な生活習慣の確立（遅刻防止） ②交通安全意識・登校マナーの向上 ③身だしなみ指導の徹底	①8時35分に教室へ入室、5分前登校の指導を継続、徹底させる。 ②交通安全指導への生徒参加、地域へのアピールしながらPTA合同指導時に保護者のたすき利用、自転車登録・点検時に交通安全指導を徹底させる。自転車通学路及び自転車の交通ルール・マナーの徹底する。 ③身だしなみ指導、事後指導、登校指導、交通安全指導時の校門指導を継続して実施する。年度当初に「生徒指導に関する確認事項」を全職員に配付し、指導内容・方法の確認する。	①評価基準（遅刻指数）を設定し、目標に到達できるよう全教員の意識を高める。 ②自転車通学者の安全への意識づけができたか。また、登校マナーの向上を図ることができたか。また、登校マナーの向上を図ることができたか。また、登校マナーの向上を図ることができたか。また、登校マナーの向上を図ることができたか。 ③身だしなみ指導、事後指導、登校指導、交通安全指導等を見直し、身だしなみを自主的に整えるような指導を全教員の理解のもとで行っていく。
進路指導部	①適切な職業観に基づく進路決定	①L Tおよび総合的な学習の時間に行う進路行事と進路指導の相関性を深め、有効な進路指導の方策を工夫する。 ②長期休業中のインターンシップを紹介する。 ③キャリア教育の計画を立案・作成し、学校教育全体の中に位置づける。 ④外部試験（模試・GTECなど）を有効に活用する。 ⑤高大接続改革への対応を進める。 ⑥就職試験受験結果報告書を活用する。	①進路行事に関しては事前・事後指導を重視し、HRでの指導と相関性を深める。 ②キャリア教育の一環として普通科2年生を対象にインターンシップを実施する。 ③教員・生徒ともにキャリア教育の意義を意識づけることで、教育活動の中に浸透させる。 ④事前・事後指導の充実に加え、外部試験の結果を進路指導に反映させていく。 ⑤大学模擬講義を3年対象の進路講演会の中に位置付けて実施する。 ⑥次年度就職を希望する生徒たちに情報を提供し、適切な指導ができるよう努める。
保健厚生部	①健康観察の充実 ②心身の健康問題の早期発見と早期対応 ③教育相談・特別支援教育の充実	①健康観察の充実 ②心身の健康問題の早期発見と早期対応 ③教育相談・特別支援教育の充実	①全職員による健康観察から、生徒の小さな変化を見逃さない体制を整える。 ②担任、部顧問等、生徒に関わる教員との情報交換を密にし、必要に応じて早期対応を図る。 ③スクールカウンセラーを有効活用し、情報共有を行いながら、適切な支援を目指す。
図書情報部	①地域への積極的な情報発信と、70周年記念誌の円滑な発行	①学校新聞を通して近隣の中学校に大府高校の特徴を積極的にアピールする。 ②ホームページをより充実させ本校の生徒だけでなく地域への情報発信を充実させる。 ③70周年記念誌を円滑に発行する。	①②学校新聞・ホームページをより充実した内容にするために校内の情報収集を迅速に行えるようにする。 ①②写真などの記録を各分掌・学年にも積極的に依頼し学校新聞・ホームページをより魅力的なものにしていく。 ③他の組織や記念誌委員会との連携を密にして取り組む。
生徒会部	①学校祭準備期間から当日までの協体制を学校組織全体で構築する。 ②体育大会における職員間、生徒間の情報共有と協働へと導く。 ③学校祭実行委員の育成、執行部との連携強化を進める。 ④学校行事を安全かつスムーズに運営するために施設、設備の点検、改修を行なう。	①②執行部員、生徒会担当教員の負担集中を緩和するために学校組織全体で仕事の分担を行なう。 ①②学校祭直前の仕事の分担、指示、協力を徹底する。 ③学校祭実行委員を早期に募集し、スムーズな学校祭運営につなげる。 ④調査中の部室点検を徹底する。	①②学校組織全体で仕事分担ができたことで当日の準備、進行がスムーズだった。次年度も継続していただきたい。 ②体育大会当日欠席者における種目変更の方法、ブロック応援については検討の余地あり。 ③実行委員の選定は学校祭の成功に大きく関わるので、生徒のさまざまな状況を考慮してじっくり確実に人選を行いたい。 ④今後も部室や学校設備の点検を徹底していきたい。
生活文化科	①生徒の実態把握に努め、各種講座、検定、行事、授業などにおいて改善点を見いだす。授業では、題材や指導方法、評価方法を工夫し、生徒の学習意欲を高める。 ②広報活動の充実を図る。	①各種講座、検定、行事などを、生徒の実態に即して改善し、それを家庭科教員で共通理解する。 ①生徒の自己評価、レポートや作文、作品や発表など観点別評価の方法を工夫する。また、一貫した評価となるよう留意する。 ②ホームページでの情報発信回数を増やし、中学生体験入学、学校説明会の更なる工夫を行う。	①生活文化科ならではの講座、行事、検定を実施し生活文化科の活性化に努めた。授業では、教員間の連携強化、情報交換を通して、授業改善に取り組めた。今後、評価方法のさらなる工夫を図りたい。 ②生活文化科におけるホームページ、トピックスの更新回数は12月時点で前年度比126%と広報活動の充実を図ることができた。学校説明会については、次年度改善の余地がある。
第一学年	「基本的な生活習慣と学習習慣の確立」	①面接や相談、声かけを充実させ、生徒の心身の健康状態を把握、保持する。 ②時間・規律・期限を守り、コミュニケーションの第一歩である挨拶を気持ちよくすることが出来る集団を育成する。 ③授業を真剣に受けることのできる環境を整え、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ④保護者との連絡を密にし、こまめな情報交換を心がける。	①3年間を見通した指導を意識し、個人面談を活用しながら個々に応じた指導を心がける。 ②登校時8時35分の教室入室をはじめ、常に5分前集合を徹底させる。コミュニケーション能力育成の一環として、自主的な挨拶の習慣を確立する。 ③日々の学習記録を通じて、担任が家庭での学習状況を把握し、学習の定着を促す。課題提出の期限を守ること、物事を最後までやり遂げる指導を心がける。 ④早めの報告、連絡、相談を相互で心がけ、生徒、保護者との信頼関係を築く。
第二学年	①具体的な進路目標の設定と学力の分析力向上	①さまざまな機会を捉えて、自分の適性に合った進路選択を考えられるように促すとともに、進路に対しての視野を広げ、具体的な目標を設定し、学習に対して向上心をもって取り組めるよう指導する。 ②日頃の学習習慣と学力状況、進路実現に必要な力を関連して考えられるように、自己分析を促す。日頃の生徒への指導や個人面談の場面で学習意欲が高まるような声かけをしていく。	①オープンキャンパスや学校調べで得た学校の情報を基に、2学期以降行われた進路講演会（学部学科の違いに関する講話や受験に関する講話）などの機会を通して、さらに具体的な受験方法や受験校を考えることができた。またそれに基づいて科目選択やコース選択等をし、受験への心構えをしつつある。さらに指導を進めたい。 ②普通科では、模試の結果を踏まえ、数学と国語で日常的な学習プリントを行っている。進路や学力に対する生徒の努力は一律ではないため、全員が前向きに取り組んでいるとは言いがたい部分もあるが、教員団の思いと熱意は徐々に生徒に伝わりつつある。熱心に取り組んでいる生徒の中には手応えを感じているものもいるので、引き続き取り組んでいきたい。また、面談等を通して、各自の学力の状況を分析し、さらに学習を進めるよう指導した。今後もさまざまな機会を捉え、学習をさせていきたい。
第三学年	「生徒の適性に合った進路希望」の実現	①面接や学習記録などにより、各生徒の「進路希望・学力・その他の状況」をより正確に把握する。 ②進路希望実現に必要な学力を身につけさせるため、模試や実力テストの結果を検討し、生徒の学力を向上させる方策を探る。そのための検討会を実施する。 ③高い進路目標を掲げ、生徒が自ら学習に取り組めるように、意欲を高める工夫をする。 ④②③を達成するため、学年と進路指導部や教科との連携をより密にする。	①面接の時間を確保する。必要な情報は会議等を通じて共有する。外部試験等を有効活用し、的確な実力把握をする。 ②校外模試の反省会・検討会を可能な限り実施し、その結果を、授業や補習にいかす。 ③段階的指導を踏まえた補習や学習会の充実、総合的な学習の時間や進路LTを利用して能動的な学習意識の高揚を目指す。 ④進路に関する生徒への声かけを、多くの教員が共通認識をもって行う。さらに、学習環境を整え、雰囲気作りをする。
実効性のある多忙解消への取り組み	①運営組織体制の在り方を点検する。 ②健康維持に配慮した体制を構築する。 ③教育水準を維持した新しい働き方を構築する。 ④学業と部活動の両立を目指し、短時間で効果が得られる合理的かつ効率的・効果的な活動を推進する。	①学年・分掌等との連携を促進し、協働した業務を推進する。 ②教職員の勤務時間に関する意識改革をする。 ③仕事の無駄を省く働き方を推進する。 ④外部コーチの活用により、部活動顧問の負担軽減を図る。	①分掌間の連携により業務の効率化が進んだ。特に学校祭に関しては昨年度よりスムーズかつ合理的に運営できた。 ②2018年から職員室の施錠時間を1時間早めた。時間外労働が80時間を超える教員では、2017年の上半期のみの総従事時間数が4,466時間から2018年は2,128時間に半減し、職員健康管理に留意できた。 ③部活動の外部コーチを5名から8名に増加し、第3、第4顧問に対外試合への引率を依頼した。その結果、時間外労働が80時間を超える教員では、2017年の上半期のみの総従事時間数が2,187時間から2018年は813時間に減少し、主顧問の負担が軽減した。 ④学業と部活動を両立に向けて、部活動の従事時間を削減し、部活動の効率化を図ることで、学業とのメリハリを付けることが可能になる。それが教育水準の維持・向上に繋がると、次年度の課題である。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	①新たな文武両道の創造 ②人間関係構築力の育成及び基本的な生活習慣の向上 ③学校における安心・安全の確保 ④創立70周年を踏まえた保護者、中学校、同窓会、地域、産業界との連携 ⑤実効性のある働き方改革への取り組みの推進	①Society5.0の実現に向け、「武」においては部活動ガイドラインが示され、部活動は「量から質へ」、「指示から支援へ」、「一律の形態から多様な形態へ」求める方向性が示された。「文」においては、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改革、学習指導要領の改訂や高大接続改革等、学び方が大幅に見直されようとしていく。それに向けてまず、教員一人ひとりが働き方や業務内容、取組み等を見直すよう更に促していきたい。 ②全生徒対象にSNSに関わる身近な事案を紹介しながら人権講話を行い、人としての生き方について考えさせる機会を与えた。そして、海外交流始め、近隣の特別支援学校との交流を通して、人間関係構築力の育成に学校を挙げて取り組んだ。更に、「心豊かな人材育成事業」の一環として、校外美化活動の参加者を募ったところ、300名近い部活動の生徒が参加し、近隣の住民から感謝の言葉をかけてもらった。また、SSW（スクールソーシャルワーカー）を講師として教員向け講座を実施し、生徒対応のスキルアップを図った。 ③夏季休業前に運動部キャプテン、演劇部部長他保健委員等に対して、部活動や学校生活を安心安全に送るための講習会を実施し、心構えと心肺蘇生の実技を学ばせた。その結果、軽微な熱中症などはあったが、大事故には至らず未然の防止ができた。 ④創立70周年記念式典に関してはPTA・同窓会・企業等と連携しながら実施し、各方面から高い評価を得ることができた。今回の反省を80周年の記念式典に生かしていきたい。 ⑤本校においては、1月より学校の開校時間を午前7時、施錠時間を午後8時とし、教員一人ひとりが主体的で効果的な部活動指導、校務に取り組むよう指針を提示し、職員会議で職員に周知した。	